

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300432		
法人名	社会福祉法人 愛光園		
事業所名(ユニット名)	愛光園グループホーム		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1401番地2		
自己評価作成日	令和6年 6月1日	評価結果市町村受理日	令和6年 8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年 7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの5類移行により、家族様との対面での面会や外出・外食などが可能になり少しずつコロナ前の生活に戻りつつあります。利用者様にグループホームでの生活を楽しく頂けるように季節の行事を行ったり、ドライブなど外に出る機会を少しずつ増やしています。また、コロナ禍で行っていたオンライン面会・タブレットを通じて日頃の様子を動画や写真で報告などは継続して行い、家族様とコミュニケーションを図っている。

医療面に関しては、毎日のバイタル測定、グループホーム専属の看護師の配置、月1回の上田クリニック受診を行い体調管理に努めている。また、体調不良時は、医師・看護師・家族と連携して対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が集うホールから各居室が見渡せ、窓からは心地よい風が入り開放感がある。利用者が思い思いに過ごされている。キッチンダイニングは見守りしやすい構造で、四方から手伝いやすく、利用者が包丁を使用し、野菜を切りながら職員と話す光景がある。ソファに座ってウトウトしながら編み物をされる姿には、掲げている理念の「自由に ゆったりと ありのままに」という言葉が連想される。看護師の定期的な訪問により健康管理がなされ、主治医との連携も密に行われることで、安心できる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由に ゆったり ありのまま」という理念をつくり、事務所の目のつくところへ掲示し共有している。	パンフレット作成時の機会に理念の見直しを行い、運営推進委員会を通し決定している。理念は、事務所に掲示し共有している。また、「自由にゆったり」というところを重視し、支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族様の対面面会・外出などは再開しているがグループホーム内への立ち入りは出来ない状況、地域との付き合いや交流までは行えていない	親族や親戚の面会等は再開してきているが、感染症対策のため、近隣との付き合いまではできていない状況である。今後、状況に応じて地域での祭りや行事に参加できるように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の対面面会・外出などは再開しているがグループホーム内への立ち入りは出来ない状況、地域との付き合いや交流までは行えていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開催している。その中でサービスの報告や研修方法の改善点、役場と連携してのマイナンバー取得の方法などサービス向上につながっている。しかし、面会場所の制限などから家族様の参加が実現出来ていない。	2か月に1回開催している、現状は、感染症対策のため家族の参加はできていないが、管理者、役場職員、包括職員、社協職員、民生委員が参加している。役場でのやり取りなどを繋ぐ場にもなっている。今後は、家族の参加も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで関係を構築している。災害時のアドバイスやその他、制度上のアドバイスをもらうなど連携が取れてきている。	役場とは、BCPの助言などを受け連携している。各制度などの不明点は問い合わせを行い、連絡を密にしている。制度説明を受けるなど良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月/1回身体拘束・虐待防止委員会を開催。また、年2回の法人全体での研修も実施予定。ユニット個別の件に関してはミーティングでの話し合いも行っています。玄関に繋がるエレベーターは施錠しています。	指針を整備し、3か月に1回身体拘束・虐待防止委員会の開催を行っている。本人らしさを重視し、安定剤や睡眠剤の量を減らせるような関わりや支援を、職員間で情報共有し、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月/1回身体拘束・虐待防止委員会を開催。また、年2回の法人全体での研修も実施予定。管理者として虐待行為が行われないように日頃より注視しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回、法人全体での研修を実施予定。権利擁護は身体拘束や虐待防止にも通じる事柄である事を周知していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点について尋ね、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・LINEで家族様から意見を聞くようにしている。出された意見については検討したうえで管理者会議や各ユニットのミーティングで反映させるようにしている。	利用者や家族からの意見を取り入れて、食事イベントを行うなど対応している。また、施設のタブレットでLINEを通じ、利用者の様子や表情などの写真を家族へ送るなどして、意見の反映が確認しやすい工夫をしている、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常会話やミーティングの時に聞き取り、反映させるようにしている。	休憩の取り方、希望休、働きやすさを重視、考慮し職員の意見を聞き入れている。また、事故防止委員会など設置し、輪番制で担当するなど平等に意見や役割を持てるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	翌月の勤務表作成時に休みや勤務の希望があれば出来るだけ応えるようにしている。また、有休に関しても出来る限りの要望には応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量や体力を把握し業務内容や夜勤回数などの調整を行っている。また、外国人の実習生が11月より採用されており、より分かりやすい内容で伝える努力をしている。法人内外の研修回数も増加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常日頃連絡はとっていないが研修先などで情報交換する程度。また、他のグループホーム見学も再開している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人様や家族様に会い、できる限り家での生活に近い状態を保てるように趣味や生活歴等の情報を聞き役立てている。(入所前対応については担当者が行っている)入所後は、話す時間を多く持ち安心を与えられるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には十分話し、説明したうえで関係づくりに努めている。(入所前対応については担当者が行っている)LINEを通じて報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、不安を少しでも取り除く事が出来るように、出来る限りコミュニケーションを多くとり、把握することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、したい事を把握し、一緒に出来ることはして頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・ケアプラン更新時・メール・電話などで接する時に発言しやすい雰囲気をつくり、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	対面面会・外出が再開しお正月などの休みに自宅へ帰られる方が増加している。 個人情報保護の観点から電話での問い合わせについては拒否している。	外泊はまだ実施できていないが、住んでいた家に一時帰宅されたり、家族対応でお墓参りをされるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に会議の場をもち利用者同士の関係が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム、法人で対応できることはおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取る中で、どのようなニーズがあるのかという事を把握できるよう努めている。また、本人の意見がでにくい場合は、家族様から情報を頂くなど本人本位で検討している。	入居後、利用者の好みや苦手なことを把握し、少しでも環境に馴染めるような関係性作りの支援を行っている。また、本人の得意や強み役割などが活かされるような関わりを大切に、本人らしい生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様のお話を参考にして把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に利用者様の状態について会議の場をもち、介護者の意見交換のもと状態把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の希望を反映できるよう情報収集し、職員で話し合い介護計画につなげている。	グループホームに専属の看護師が配置されているため、主治医との医療連携がスムーズに行え、医療、介護の両面から支援ができる介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトに入力しており、いつでも確認できるようにしている。また、ケアプランについては事務所に置いてある為、いつでも確認可能。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で対応できないことは、他の事業所や医療機関を中心に連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物は再開している。必要な社会資源があれば活用出来るよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に他科受診などもおこなっている。また、他科受診の場合は、家族様・看護師の協力も仰いでいる。	夜間対応や緊急時、また、服薬状況などの管理もスムーズにできるため、希望に応じて提携医を選ばれている。皮膚科、眼科などの専門医の受診については、家族と共に職員も付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師が平日の午前中に勤務している。医療面でのアドバイスや通院・主治医への報告など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ADLなどの諸情報を提供している。退院時の受け入れについても医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になると家族・医師・看護師・特養と連携して利用者に負担が少ないような方法を検討する。現状では特養に移るケースが多い。	ターミナル支援の受け付けは行っていない。家族には十分に説明し理解いただき、同法人の特養施設に移動していただいている状況である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しているが訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の把握について特養と合同で避難訓練を実施また、BCPの研修も実施予定。備蓄に関して2日分ぐらいの水は確保している。食料に関しては特養で備蓄している。	年2回、消防署職員が来て夜間の火災想定で実施している。避難経路の周知を日頃から行っている。水害時、震災時等もどこに避難するか周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには注意をし、敬語や崩した言葉を場面で使い分けるなど、その方に合った丁寧な対応を心がけています。	接遇研修を年1回開催する予定としている。場面に応じた会話で、楽しめるような声掛けや、丁寧な口調を心がけるなど、状況に応じ使い分け、利用者の尊厳やプライバシーを守れるように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のなかで利用者の希望を見つけれるようにしている。自己決定については、簡単な範囲でしか対応できていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの行動を把握し本人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類をきれいのように援助している。また、衣類の購入に関しては、家族様に持って来て頂いたり、要望に応じてこちらで購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を手伝って頂いたり、食べた後片付けも行なって頂いている。	利用者の能力やレベルに合わせて調理をされている。出来るだけ全ての利用者に参加していただき、出来る範囲で手伝っていただけるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は特養の栄養士が作った献立を参考にしている。嚥下状態が悪い方には摂取しやすいようにとろみをつけるなど水分量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけや介助により口腔ケアに努めている。また、必要に応じて洗口液を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まずは決まった時間にトイレ誘導を行い、失敗する間隔や時間帯などのパターンを把握してその方にあった時間で誘導を行うなどの支援をしている。	リハビリパンツから布製のパンツに切り替わるなど、自立支援につなげている。事前に声掛けなど支援があることで、失禁を防ぐことができている。また、プライバシーに配慮した声かけを行っている。浣腸は、排便コントロールの必要時に看護師が行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルト・バナナを摂取し腸内環境を整えている。それでも排便のない方は服薬にて排便を促している。また、医師や看護師と相談して対応を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっておりますその中で利用者の方の希望に沿えるようにしている。	週3回午前中に入浴を実施している。拒否傾向の利用者に対しては、声掛けや時間を変えるなど工夫した取組を行っている。入浴剤は、毎日種類を変えて、利用者の楽しみに繋がるように実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動し続けることがないよう、適度に休憩をとってもらい、就寝時には適温に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬剤情報はファイルに入れ、薬剤情報を常に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事動作を通して役割を持って頂く支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1か月に1回通院をしている。花見・紅葉を見にドライブに出かけたり、用途に応じて外出しているが、コロナ前ほどの頻度までは行っていない。	月1回通院時の外出の他、花見や紅葉イベントで出かけている。施設の屋上に上がり、洗濯物を一緒に干したり、取り入れるなど、日常的に外気に触れる機会を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない入居者の方が多く、身の回りの物を買いたい時は、預かっているお金で買い物を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはいつでもかけれるようにしている。 携帯電話を所持しておられる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には混乱をまねくような物は置かないようにしています。また、空調による快適な温度管理に努めています。	利用者同士が、居心地良く過ごしていただけるようにソファを設置したり、机や椅子の配置をするなど配慮している。利用者は、職員と一緒に毎朝掃き掃除、拭き掃除を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ設置して気のあった方がゆったりと過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様に説明し、愛用の品物があれば持ってきてもらうようにしている。本人の希望があれば冷蔵庫など設置している方もおられる。	愛用の掛布団を持ってこられていたり、茶筆筒、机、ソファ、家族写真、冷蔵庫など自由に持ち込みをしている。趣味の時間を楽しめるように編み物などして過ごす利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン是对面式になっており、見守りしながら調理して頂いたり、共有スペースも見わたせ安全を確保するよう努めている。		